

創立35周年記念



公益財団法人 岡山工学振興会

The Okayama Foundation for Science and Technology

令和5年7月15日

創立 35 周年を迎えて

公益財団法人 岡山工学振興会
代表理事 則次俊郎

本財団は、平成元年 2 月に設立され、平成 23 年 11 月に公益財団法人に移行しました。4 億 1,800 万円を基本財産として、岡山県下における理工学に関する研究を振興するとともに、産業界と教育研究機関との連携を図ることによって、学術及び技術開発の進展に寄与することを目的としています。

このような目的を達成するため、現在、学術研究助成、産学官連携研究会への助成および学術交流推進事業を中心に事業を展開しています。助成事業の中核となる学術研究助成においては、財団の設置から令和 4 年度までに、総応募件数は 1,514 件に達し、そのうち 736 件が採択され、助成金の総額は 697,134,500 円となっています。岡山県内の大学および高専に所属する多数の研究者の研究活動を支援することにより、研究振興に貢献しています。

本財団の助成事業は、内山工業株式会社元会長故内山勇三氏からの寄附金ならびに賛助会員の皆様方からの会費を基金として運営されています。学術研究助成では、「内山勇三科学技術賞」を設け、特色ある先導的成果を上げている研究者に対して特別研究として助成しています。貴重な基金をご提供いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

また、財団設置以来、7 名の皆様に理事長あるいは代表理事として財団の舵取りにご尽力いただきました。さらに、歴代の理事、監事、顧問、評議員および研究助成選考委員会委員の皆様には財団の運営に多大なご協力をいただきました。財団が創立 35 周年を迎えることができますのは、社会情勢や経済状況が目まぐるしく変化する中、時々の状況に応じて適切な財団運営をしていただいた歴代役員および事務局の皆様のご尽力の賜物であります。

さらに、本財団の助成事業に応募いただいた研究者の皆様におかれましては、助成金が研究の進展に少しでもお役に立っていれば望外の喜びであります。

さて、財団を取り巻く状況に目を向けますと、長年の低金利政策は金利による運営を基盤とする財団にとってきわめて深刻な状況です。また、近年、研究助成への応募が特定の分野に偏る傾向があります。大学教員の多忙化などがその一因とも考えられますが、今後とも財団の使命を果たすためには、今以上の周知が必要であり、各種の広報活動が求められています。

本財団の設立趣意書には産学官連携の重要性が盛り込まれています。助成を受けた研究者の先進的な研究成果が、共同研究や技術移転などの産学官連携に繋がるとともに、さらに、それらが異分野融合研究などへ進展すれば岡山県内の学術及び技術開発の裾野が大きく広がります。本財団はこのような連携や融合のお手伝いをさせていただきます。

創立 35 周年を機に、関係各位にはこれまで同様に本財団の活動に対してご助言とお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

記念行事プログラム

1 記念式典式次第（10：30～11：20）：2階 白鳥

- 一 開 会
- 二 代表理事挨拶 則次 俊郎 公益財団法人 岡山工学振興会
- 三 来賓祝辞 那須 保友 岡山大学学長
内山 兼三 内山工業株式会社代表取締役社長
- 四 功労者の表彰
 - ①感謝状 内山工業株式会社 殿 倉敷化工株式会社 殿
新興工業株式会社 殿
株式会社 英田エンジニアリング 殿
株式会社 システムズナカシマ 殿
ナカシマプロペラ株式会社 殿
北興化学工業株式会社 殿 安田工業株式会社 殿
 - ②感謝状 鳥居 滋 殿 小西 忠孝 殿 古賀 隆治 殿
酒井 貴志 殿 那須 眞幸 殿 安藤 仁志 殿
正富 一孝 殿
- 五 被表彰者代表挨拶 鳥居 滋 殿
- 六 財団の歩み講演 古賀 隆治 殿
- 七 祝電披露
- 八 閉 会

2 記念講演（11：30～12：20）：2階 白鳥

- ① 演題「EB ポリッシングによる AM 造形物表面仕上げに関する研究」
講師：岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域（工）
教授 岡田 晃 氏
- ② 演題「電荷秩序構造を示す希土類鉄酸化物薄膜の合成と非線形光学特性」
講師：岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域（工）
教授 藤井 達生 氏

3 記念祝賀会次第（12：30～14：00）：2階 孔雀

- 一 開 会
- 二 代表理事挨拶 則次 俊郎 公益財団法人 岡山工学振興会
- 三 祝 辞 難波 徳郎 岡山大学工学部長
- 四 賛助会員企業出席者紹介
- 五 乾 杯 梶谷 浩一 公益財団法人岡山工学振興会選考委員会委員
- 六 祝 宴
- 七 閉宴の挨拶 船曳 繁之 公益財団法人 岡山工学振興会業務執行理事

財団の歩み

- 昭和 64 年 1 月 6 日 岡山県教育委員会へ設立申請書を提出した。
主たる事務所を岡山市津島福居二丁目 1 番 3 6 号とした。
- 平成元年 2 月 3 日 岡山県教育委員会より岡山県教育委員会指令教秘企第 233 号により設立が許可された。
- 2 月 8 日 岡山地方法務局に財団設立の登記を行った。理事長を小坂淳夫氏とし、財団役員は 12 名で構成した。設立時の資産総額は 3,750 万円であった。これとは別に、寄附金を広く募集することとし、その目標額を 3 億円とすることになった。
- 6 月 16 日 内山工業株式会社社長 内山勇三氏より学術研究助成のための冠特別研究費として、2 億円の寄附の申出があり、岡山市小橋町のユウサンビルで小坂淳夫理事長外が出席し、贈呈式が行われた。この助成金は「内山勇三科学技術賞」として毎年度 600 万円を特色ある先導的な研究に対し助成することになった。
- 7 月 14 日 財団設立最初の学術研究助成、国際研究集会等派遣助成、学術研究集会等への助成の公募を行い、助成事業の第一歩を踏み出した。
- 9 月 10 日 内山工業株式会社社長 内山幸三氏より、内山工業株式会社株券 373,200 株（国税庁評価額 11 億円）を研究助成基金として寄附を受けた。
- 平成 3 年 4 月 1 日 財団事務局の主たる事務所を岡山市津島東二丁目 7 番 17 号エクセレント津島 A201 号へ移転した。
- 平成 5 年 8 月 1 日 小坂淳夫理事長の後任に、第 2 代理事長として前岡山大学長高橋克明氏が就任した。
- 平成 17 年 4 月 1 日 高橋克明理事長の後任に、第 3 代理事長として元岡山県立大学長本田和男氏が就任した。
- 平成 18 年 4 月 1 日 財団事務局の主たる事務所を岡山市津島中三丁目 1 番 1 号（岡山大学新技術研究センター内）へ移転。
- 平成 19 年 4 月 1 日 本田和男理事長の後任に、第 4 代理事長として岡山大学名誉教授鳥居滋氏が就任した。
- 平成 21 年 1 月 31 日 財団法人岡山工学振興会創立 20 周年を迎えるにあたり、岡山ロイヤルホテルにおいて、「記念式典」、「記念講演」、「記念祝賀会」を開催した。
- 平成 22 年 11 月 10 日、平成 23 年 1 月 20 日 内山工業株式会社 取締役相談役 内山幸三氏より学術研究助成のための冠特別研究費として、1 億円の寄付を受けた。
- 平成 23 年 4 月 1 日 鳥居滋理事長の後任に、第 5 代理事長として岡山大学名誉教授小西忠孝氏が就任した。
- 11 月 1 日 公益財団法人へ移行登記を完了した。
- 平成 27 年 6 月 23 日 小西忠孝代表理事の後任に、第 6 代代表理事として岡山大学名誉教授古賀隆治氏が就任した。
- 令和 2 年 6 月 16 日 古賀隆治代表理事の後任に、第 7 代代表理事として岡山大学名誉教授酒井貴志氏が就任した。
- 令和 5 年 6 月 20 日 酒井貴志代表理事の後任に、第 8 代代表理事として岡山大学名誉教授則次俊郎氏が就任した。

